

ちるイル

「触るだけですよ・・・
それ以上は絶対にはいりませんからッ!」

家賃は身体で払わせる

-----若妻集金孕ませ中出し-----

基本CG14枚(エッチ11枚+会話3枚)+差分
合計181ページ(本編90+文字無90+表紙)

「奥さんの中絶手術
が、ハイキックで、
一瞬で済んでしまっ
た」

「やだぁ・・・
こんなやだよ!!」

「すみません、家賃の支払い
もう少しだけ待ってもらえないでしょうか？」

「ダメです、もう3ヶ月だ。」

「今週中に払ってもらいますよ」


夫の勤め先の会社の倒産という理由もあって
今まで多めに見てきたが、そろそろ限界だった。
それほど居住者もないこのアパートで家賃を滞納され続けては
管理人のコツチの生活にも影響が出てくる。

「奥さんのパート代で何とかならないんですか？
生活費ぐらいは稼げてるんでしょ？」

「それでも正直なところギリギリで……。
時給も低いですし、既に借金もある状態で。」


「……外でこういう話すのもなんですし、
一旦家で話しましょうか。」

そうやって俺は彼女を部屋に連れこんだ。



「で、どうするんですか？
こっちもボランティアじゃないんだから。
いつになったら払えるんです？」

「・・・すみません、
正直時期も目処がついてなくて、
働く時間も増やしてなんとか
お支払いしますので・・・」



「それじゃ困るんですよ。
期限も約束できないのなら、
今月で退去してもらおうって事で」

「そんなぁ・・・
お金は必ず何とかしますので！
引っ越しする費用すら今は厳しくて。」

「何とかって。」

「そもそも奥さん、まだ若いんだし本当に稼ごうと思ったら色々仕事あるでしょ。」

「そういう事じゃ無いんですよ。俺が言ってるのは、身体使う仕事の事だ。」

「いえ、職歴もパートとかしかなくて中々高額で雇ってくれる会社も・・・」



「身体を使う……
仕事？」

「そつ、そんなこと出来ないです！
そもそも私結婚してるとですよ！」

「風俗とかですよ。
奥さん美人ですし若いんだから、
家賃も借金もすぐ返せる金額
稼げるでしょ。」



「結婚してるからってお金無いなら
仕方ないだろ！
人妻向けの店もあるんだし！」

「へえ、
知らない人じゃなきやいいんだ？」

「何言ってるんですか！
知らない人に相手に身体を
触らせるなんて出来ません！」

「えっ？どろろって？」

「俺と奥さんは
知り合いだよなあ。
ちよつといいこと思いついた。
いうこと聞くなら支払いは
待ってやってもいいぜ。」



「前から思ってたけど
やっぱでかいな。」

たぽんっ

「知らないですッ、
やめてください！」

「おいおい、胸を揉ませるだけで
家賃待ってやるって言うてるんだぜ？
こんな美味しい話はねえだろ。」



「触るだけですよ、
それ以上は絶対にないですからッ！」

「そ、そんなッ……。」

「わかってるって、
て言うかブラ越しじゃ
揉んだ気しないんだよなあ。
直で揉ませろや。」

もみっ

もみっ





「うッ……。
知らないです。」

「おお、直に見るとますますエロいな。
なんだ乳首立ってんじゃん。」

「何恥ずかしがってんだよ。
旦那にいつも揉まれてんだろ。」



「……………」

わっ！

わっ！

もみっ！

「へえ、もしかして
セックスレスってやつ？
あんましてねえんだ？」

「そんなこと……
関係ないでしょ……！」

「せっかくタダでこの身体を
自由にできるってのに、
旦那は罰当たりだなあ。」

「ムハハ！」

「うあ……
もっと優しく……」

「優しくも良いけど、
ただ揉んでるだけじゃ
奥さん気持ち良く
ならねえんじゃないの？」





「ふんっ……っ」

「ふんっ」

「ふんっ」

「モノは相談だ。家賃をマケて
やっても良い。
その代わりもう一個お願いを
聞いてくれや。
奥さんにも悪くない話だと思うぜ」




「何、大したことじゃない。
奥さんも俺もお得な話だ。」

「.....」

たぽん!

たぽん!

ドギン!
ドギン!



「うぁ……
こんなのやだっ！」

「何がやなんだよ？
自分でいつも弄ってんだろ
こらやって？」

「うっ……!!
そんなことしてません!」

「へえ、じゃあ欲求不満は
どうやって解消してんだ?
旦那とはご無沙汰なんだろ?」

エロ♡

エロ♡



「くふっ、あっ！
んん・・・っ！」

「そんなあつ・・・、
恥ずかしい・・・っ！」

「パンツの上からだとうまくいじれねえだろ？
脱いじまえよ！」

♡さっ♡

わっぴん♡

「うあ……！
だめえ……！
見られながらこんな
ことするなんて。」

はあ
はあ

にちや
♡

♡ん♡

「その割にいい
声でてんぜ？」

「ああつ……！
んう……！
こんなのダメエ……！」

「お願いです・・・！
見ないでください！」

にちゅ♡

あんなに♡

ん♡

「俺には構わず
もっと激しく弄ってみろよ！
だんだん気持ち良くなってきただろ！」



「オラ！もっと激しくいじれよ！
いくまで終わらねえからな！」

ハア
ハア

クチユウ

クシクシ

クシクシ

「ダメ……！
人前で……！
ひっ、あぁっ！ダメえ！」





「ひっ……ひっ……」

はち♡ はち♡

♡じろすぬ♡

「おお、奥さんだけ
イっちゃたのか？
でも一人だけってのは
ずりいよなあ？」



「今までの延滞分も
考えてやるから、
俺のもしやぶつてくれよ。」

ほんっ

「……ッ！」

「スッキリしたら賃料のことも
どーでも良くなっちまうかもなあ？
考える内容じゃ無いよなあ？」

ふっふ
♡

「触るだけだって
言ってたじゃ
無いですか……！」

はあ
♡

はあ
♡



「支払いを待つ上に
マケてやるうって言ってるんだ。
それとこれとは別だろうが。」

あう
♡

「……
今回だけですから。」

んん
♡





「おお、暖かくていい感じだわ。
もっとガッツリ啜えてくれや。」

ちゅぽ

ちゅぽ♡

ちゅぽ♡

「そうそう、カリ首も
丁寧な舐めまわす感じで。」

ちゅぽ
ちゅぽ

ハァ
ハァ

「じゅじゅ」
はやく終わって。」





「ぐんぐん」

「いいねえ、そろそろイキそうだ。
ガッツリ啜えてろ！口に出すぞ！」



「んっっっっっっっ」

ガッ♡
ガッ♡

ズッ♡
ズッ♡

「ああくそっ！
絞り取られる！
全部飲みほせ！」



「はあ、スッキリしたわ！
でもまだまだ元気なんだよなあ！
じゃあ値下げ交渉続けよつか奥さん。」

ジュジュ
ジュジュ

ハア
ハア
ハア



「ちよつと！
こんなの聞いて無いです！
絶対ダメ！」

「住むとこ無いと困るだろ？
今ちよつと我慢するのと、
この先の苦労考えたら
答えは一択だ一択！」



「や、やだぁ・・・！
ちよつと待って！」

「家賃は待ってやっても
良いぜ・・・
でもこっちは・・・」

ユクニ♡
ユクシ♡



「ふんふん」

ふんふん
ふんふん

「おおっ！良い具合だわ！
ヌルヌルになってん
じゃねえか！」



「えぐっ……
ひどいっ！
許さない……！」

「そんなこと言ってる割に
締め付けるじゃねえか？
アンタも溜まってたんだろ？」

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

ちゅっ♡
ちゅっ♡
ちゅっ♡

♡ちゅっ♡



♡ ぽんぽん♡

♡ ぽんぽん♡

ぽんぽん

♡ ぽんぽん♡
♡ ぽんぽん♡
♡ ぽんぽん♡

「奥さんの中良すぎて
すぐイキそうだ！
そろそろ出すぞ！」

「やだぁ・・・!!
こんなのやだよー！」



「悪い悪い、
ゴムしてなかったわ。
一回出しちまったし、
何回でも同じだよなあ？」

ゴク
♡

「うそっ……！
中に出てる……
なんで……！」

ゴク
♡

ゴク
♡

ゴク
♡

ゴク
♡



「1日のうちにこんなに
するのは久々だわ！
今何回めだ？」

「良い加減返してください……！
早くピル飲まないと……」

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡





「しらねえよ！」

というか奥さんもノツて

きたんじゃねえか？

またがって腰振りやがって！」

あう♥

いぢゅ♥

じさびな♥

「そっ、そんなこと・・・！」



「中出しされまくって
発情してんのか？
オラ！また出すぞ！」

ハアハア
ハアハア

「やだ・・・！
もう中出しされたくない！」

ふちゃ
はな

「ふうう。
出した出した。
また頼むわ奥さん。」


あう♡

はは♡

「そんな・・・
もういやです・・・
今回限りでこんなこと」

ちゅぽ♡



A woman with long, straight brown hair and bangs is shown from the waist up. She has a surprised expression with wide eyes and an open mouth. She is wearing a dark blue, sleeveless, high-necked top and light blue jeans. Her hands are clasped in front of her chest. The background is a hotel room with a bed, a brown sofa, and a desk.

「さて奥さん・・・？
また支払いを伸ばしてほしいって？
まあ相談ぐらいは聞くけどさ。」

「それよりなんでこんな所で
相談なんですか・・・？
昼間からラブホテルなんて・・・」

「そもそも、支払いは待ってくれるって!」

「それは先月分な!
それ以上前から延滞してる分
いっぱいあるじゃねえか!」

「そっそんな・・・!
あんなことまでされたのに!」

「そのあんなことされた、相手にラブホに呼び出されて、ノコノコ着いてきたんだ？期待してんのか？」

「わかってるわかってる。家の周りじゃ近所の目もあるしって気遣いだよ。」

「なあっ……！わ、私はそんなこと考えてなんか……！」

「でもさ奥さん、どっちにしろ
払えないんだろ？
折角だしまたバイトしないか？」

「そうか、じゃあこうしよう！
家賃免除の他にバイト代
もプラスだ！」

「そんな！そもそも話が
違います！早く話し合って、
ここから帰らせてください！」





「そういう問題じゃ・・・」

「良いから良いから。
どっちみち旦那と家を追い
出されるか、今俺に抱かれるかの
二択しかねえんだ！
さっさと犯らせろや！」

「相変わらず良い乳だわ。
デカイのにいい感じに
ハリがあつて。」

「ちよつと！
だから辞めてください！
こんな事しにきたわけじゃ。」

ふるんっ♡





「へっ」

「うるせえよ！
ごちゃごちゃ
言いやがって。」

♡

「ラブホに付いててきてる時点で
その気ありだろうが！」

「ううっ・・・！
そんな事ないです！」

♡V☆V♡


♡V☆V♡



「何がそんな事ないだ
この淫乱女！
乳首ビンビンじゃねえか！」

「やめて！そんな事ない！
私は……。」





「相変わらず素直になんねえなあ！
しゃーない、身体に聞いて
やっから覚悟しとけ！」

「やだっ！
これ以上はやめて！
お願いだから！」



「おいおい、
胸揉まれただけなのに
ぐちよぐちよじゃねえか。」

「そんな事ないです！
お願いだからやめて！」

JJJ



「何言ってるんだ嘘つき女！
じゃあなんでこんな
ズルズルになってんだ！？」

「はぁん！」

はぁん

はぁん



「嗅いでるじゃねえか！
旦那以外ので感じやがって！
申し訳ねえと思わねえのか！」

んっ♡
んっ♡

「うう・・・！
感じてなんかない！」

うっ
んっ



「あう……あう……」

はあ♡
はあ♡

「まだ言ってるのか！
お前はどんな奴でも
感じる淫乱女なんだよ！」

ちんぽ♡
ちんぽ♡



「今回も中出ししてやるからな！
おら、受け止める！」

ふっふっ ♡

ハァ♡ハァ♡

「やめて……！
中はダメ！中は……」

うっぽん
うっぽん
うっぽん



「だめえ！
はあはあはあっ！」

あっ♡
あっ♡

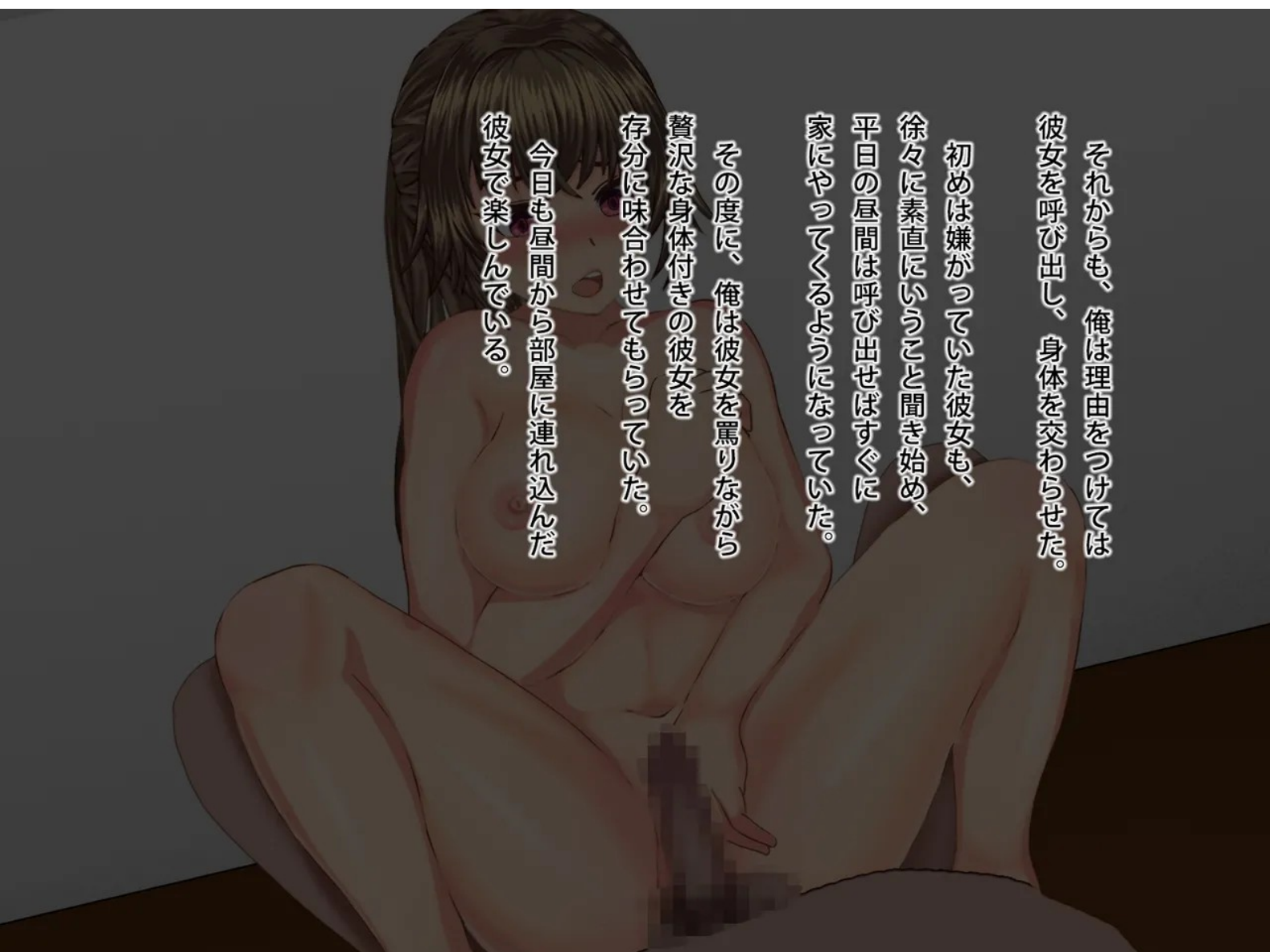
はっはっ
はっはっ



「ふう！出した出した。
奥さんもだんだんいい声に
なってきたなあ。
ま、これからもよろしく。」

「ひゅ……！
いやあ……。」

ジュジュ
ジュジュ



それから、俺は理由をつけては彼女を呼び出し、身体を交わらせた。

初めは嫌がっていた彼女も、徐々に素直にいうこと聞き始め、平日の昼間は呼び出せばすぐに家にやってくるようになっていた。

その度に、俺は彼女を罵りながら贅沢な身体付きの彼女を存分に味合わせてもらっていた。

今日も昼間から部屋に連れ込んだ彼女で楽しんでいる。

「昼間から呼び出して悪いな
それじゃお楽しみと
行こうか。」

はあ♡
はあ♡

んんん

「ううっ・・・
なんで毎回こういう流れに。」



「うめえん……」
「……またあ！」

ゴクゴク♡

じゅん♡

「これも人付き合いの
うちだと思えよ。
支払い待ってくれてる恩人に
感謝の気持ち持って奉仕しな。」



「最近は中々素直になつてきたじゃねえか！俺のアソコが気に入ったか？」

あう♡

ちゅぽ♡

ちゅぽ♡

「そんな訳無いじゃないですか。私はただ、家賃のお話をしに来てるだけで。」

「へえ？生でアソコに突っ込まれて
そんな喘ぎ声で嗅いでるのにか？
そもそも毎回こうなってるのに、
それでも家賃の話だつて？」

んっ♡

んっ♡
んっ♡

「あっ、あなたが無理やり
いつもこんな事するから
じゃないですか！」



「欲求不満で浮気セックスにハマったんだろ！人のせいにすんじゃないねえ！罰として中出ししてやる！」

「そんな！やめて！中はだめえ！」

ハア
ハア

じりり

じりり

じりり

じりり

「へっへっへっへっへ」

「うお！イク！」

ぷんぷん

ぷんぷん





ひま♥

あっ♥

「ああ〜よかったわ！
とりあえずシャワー浴びてくるか。
夜には家に戻らねえと怪しまれんדר？」

「あっ……
うっ……！」

エロエロ

エロエロ



「どうせすぐ
流すんだし一緒だろ！
また元気になっち
まったからよ。」

はあ♡
はあ♡

「ちょっと、シャワー
浴びにきたのにここで
またしたら意味ない
じゃないですか！」



「ああ〜いいわ！
相変わらず奥さんも
ぐしょぐしょだな。」

ふっふ ♡

しゅん

「んっ！ダメ！
さっきいった
ばっかりなのに。」



「そうか、シャワー
浴びてるもんな！
どうせ流れるしまた
中出しで大丈夫だよな！」

ひま

「これはシャワーで
濡れてるだけで……」

♡さっ♡

♡さっ♡
♡さっ♡



「うるせえよ！
中に注いでやる！
うお、イク・・・！」

「ちよつと、
また・・・！
いい加減外に
出して・・・！」

ちゅぽん♥

ちゅぽん♥
ちゅぽん♥

んっ♥
んっ♥
んっ♥



「うお！また搾り取られる！
ドエロな人妻マ●コめ！」

ハアハア
ハアハア

「おおおおお」

ジュッ



「もう……！！
なんで毎回
中に……！！」

んっ♡

んっ♡

んっ♡


「ふっ出した出した。
今日もごちそうさま、
また頼むわ。」

「よお、奥さん。」

部屋に入るのは入居手続き以来だが、
ホントに金ねえんだなあ。
ほとんどモノが置いてねえ。」

「ホントに余裕が無いんです。
それより、なんで部屋までくるん
ですか！」






「大家として当たり前だろ？
家賃の催促も含めてなあ。
まあこの様子じゃまた身体で
払ってもらおう事になりそうだが。」

「きよ、今日は絶対ダメです。
また後日にして下さい！」

「おいおい、なんでダメなんだよ。生理中か？俺は別に構わねえぞ。気にすんなよ。」

「なっ！違います！
・・・今日は危険日なんです。
あなたの事だからまた避妊も
せずにするつもりでしょ。」

「さすがに避妊は考慮するさ。
断るなら今までの事、あんあなたの
旦那に伝えて家賃回収するわ。」



「そんなっ・・・!!
なんでそうなるんですか!
お願いですからやめて下さい!」

「やめてほしいなら言う事
聞けよ。ほら、さっさと
服脱いで裸になれ。」

「んっ・・・」



「ほら、危険日マ●コ
がどうなってるか
開いてみせろ！」

「はっ、
はい……!!」

はぁ♡

クチユッ



「おいおい！」

触ってもねえのに

ぐちよぐちよじゃねえか！

バッチリ子作りモード

入ってんな！」

ちゅぽ♡

「仕方ないじゃないじゃないですか・・・
生理現象なんだし。」



「じよ、冗談です
よね・・・!
今日は絶対中出しは
ダメですから!」

「本能的に子作り
したいってか?
じゃあ孕めるように今日も
たっぷり出してやるわ!」

ひま
♥

「あつ」
♥
「あつ」
♥



「お願いです！
ゴムつけてください！
今日は絶対ダメ！」

はあ
はあ
はあ
はあ

「そんなもん
持ってねえよ！
生で入れるに
決まってるんだろ！」

JINJ



はあ♡

「お願いです！
今日は外に出して！
ホントに赤ちゃん
できちゃう・・・！」

「しゃーねーな、じゃあ正直に
危険日マ●コで感じてるって
言ってみろ！
そしたら考えてやる！！」

♡さっかん♡

あう♡

あう♡

「き、危険日マ●コ
で感じてます。
夫以外の挿れられて、
孕んじゃう
かも知れないのに
感じちゃってます。」

ちゅぽ♡

「うーん足りねえ！
口だけでいいから
中出しで孕ませて
って伝えてみる！」

んっ♡

「私の危険日オマ●コに一杯中出しして、孕ませて下さい！私の中で一杯射精して、赤ちゃん作らせて下さい！」

「しゃーねえ、じゃあがつつり中出ししてやるから絶対孕め！うおっ！そろそろ出る！」

ぽちゅぽちゅ

「うそ！ダメえ！
お願い抜いて！
外に出して！」

ハア
ハア
ハア

「抜かねえよ！
もちろん中だ！
出るぞ！絶対孕めよ！
たっぷり出して
やるからな！」

カチン
カチン
カチン





「うおいく!
淫乱マ●コで
孕め!」

んんろ♡

ゴクッ♡

「おちくためえ!
なおじ
んんろ……」

んんろ
んんろ



「ああ良かったわ！
いつも以上に
吸い付いてきたなあ。」

あう♡
あう♡

「なんでえ・・・。
これじゃホントに
赤ちゃん出来ちゃう。」

アハハハ
アハハハ



「こんだけ出したらホントに
孕んじゃうかもなあ。
想像以上に良かったわ
危険日中出し。」

「ひどい・・・！
中が出さないって
言ったのに・・・！
オマ●コ精液で
ぐちよぐちよ
になってる・・・！」

ゴクゴク♡

ゴクゴク♡

ゴクゴク♡



「悪いな持ってねえわ。
まだまだ時間あるし、
一通り楽しませてもらったら
買いに行っても良いぜ。
間に合うかどうかしらねえけど。」

「うう・・・。
早くピルを・・・。
お願いします！」

ひま

あま



「・・・早く満足して
下さい。」

また私のマ●コ
使って良いですから。」

ハア
ハア

ワパ

「良いぜ、全部搾り取れるよう
頑張りな。
早くしないとマジで
間に合わなくなるぜ。」























































































































